



横浜トリエンナーレ応援企画

FIRST PREVIEW

Evolution Cafe

エヴォリューションカフェ

21世紀のライフスタイルを進化させる新しい世代のアート

**2005年2月・3月 巨大アートスペース BankART Studio NYK（横浜都心臨海部）
オープニング（※1）とともに開催**

謹啓 向春の候、ますます御健勝のこととお慶び申し上げます。平素より、新しい世代によるクリエイティビティーを応援する当会の活動に対し、格別のご高配、ご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

クリエイティブクラスター（※2:アートデモ）では、来る2月18日より3月15日まで、**IT革命以降の21世紀らしいライフスタイルのかたちをアートとデザインの新世代の担い手が作品を通じて提案する展覧会**、「Evolution Cafe 21世紀のライフスタイルを進化させる新しい世代のアート」を、横浜臨海都心部に新たに誕生する BankART Studio NYK（※1:※3）にて開催致します。

いまや私たちの生活の中で必要不可欠なものとなったIT。人類の歴史の中で人間らしくあり続けるために必要不可欠な存在であり続けてきたアート。この2つの私たちにとってかけがえの無いものが結びつくことで、新たなライフスタイルの可能性が今、生まれつつあります。**物心ついたときよりコンピュータに触れてきた新しい世代が、アートによるクリエイティビティーを得て、IT革命以降の暮らしを豊かに刺激的にする作品を生み出し始めているのです。そして作家たちの才能は作品のみならず、魅力的な新製品やITサービス・コンテンツを創造するためのデザインや、より内部の開発にまで影響を与えています。**しかし、これからの時代にクリエイティブな活力を与える新しい世代の可能性に富んだ動きは、今までのアートや産業の価値観からみて新しいものであるため、現場にいる一部の最先端の人々しか実感できない状況にあるのです。

こうした状況のなか、本展ではアートとデザイン、最先端のものづくり、プロダクトの領域で、瑞々しい活躍をしている作家たちの可能性を位置づけた代表作の展示を通して、**アートが私たちの21世紀の生活をどのようにデザインし、ITをどうライフスタイルを豊かにするものにクリエイティブして行くことが出来るのかを紹介**します。この展示から、**アートの創造力ともものづくりの力が、くらしや社会を豊かに明るく進化させる、新たな時代の可能性を発見する機会**になることでしょう。

また、本展は今年秋、横浜臨海都心部にて開催される国際現代芸術展「横浜トリエンナーレ」の市民応援企画として、アートによる社会貢献と市民による横浜活性化の活動として「クリエイティブシティー」横浜としてのブランド発信を担います。横浜におけるクリエイティビティーの発露として、作品の展示のみならず、IT時代の先駆的なものづくりの分野に貢献する各分野の企業とともに、ITとクリエイティビティーを結びつけたプロダクトやコンテンツを開発、その過程を展示する実践性に富んだ公開制作プログラムや、電子工作などメディアアートが礎となるものづくりを実践として子どもが楽しめるワークショップ（4）や、クリエイティビティーを通じたソフトパワーによる経済と社会再生をテーマにしたカンファレンス（5）など、アートとITとの結びつきによる新たな可能性を提示する多岐にわたる周辺企画が実施されます。

つきましては、「Evolution Cafe 21世紀のライフスタイルを進化させる新しい世代のアート」展を貴媒体上でご紹介いただきたく、周知・告知活動にご協力賜りますようお願い申し上げます。

謹白

※1:同会場において BankART1929 主催による現代芸術展「食と現代美術」と Reading Room 実行委員会主催「Reading Room」が同時開催されます

※2:アートデモは2005年1月よりクリエイティブクラスターに改称しました

※3:横浜市が都心部歴史的建築物文化芸術活用実験事業として臨海都心部にある歴史的建造物を NPO 等との協業により再生してオープンした巨大アートスペースです。同プロジェクトによって生まれた BankART 馬車道の建物(旧富士銀行)は4月より東京藝術大学大学院映像研究科(映画専攻)に生まれ変わります

※4・※5:現在調整中、詳細は次報にてお知らせします

開催概要

■タイトル=「Evolution Cafe 21世紀のライフスタイルを進化させる新しい世代のアート」

(片仮名表記=エヴォリューションカフェ)

横浜トリエンナーレ応援企画

■会期= 2005年2月18日〔金〕-3月15日〔火〕会期中無休 ■開場時間=11:30-19:00

■会場= **BankART Studio NYK** 神奈川県横浜市中区海岸通3-9

みなとみらい線馬車道駅徒歩4分・JR桜木町駅/関内駅徒歩10分

ホームページ= <http://coolstates.com/evolution/>■入場料=800円 併催展「食と現代美術」BankART1929主催/「Reading Room」Reading Room 実行委員会主催 との共通入場券
中学生以下入場無料

■主催=クリエイティブクラスター ■共催=横浜市文化振興財団 BankART 1929 財団法人知的資産活用センター

■後援=横浜市

■協力=株式会社イーケイジャパン/マクロメディア株式会社/株式会社イデー/株式会社エヴォリューション

■お問い合わせ=Tel. 03-6219-0112 / e-mail= artdemo@coolstates.com

■出展内容

横浜都心臨海部の歴史的建造物をリノベーションして新たに生まれるアートスペース、BankART Studio NYK を会場に、日常の寛ぎの中でのライフスタイルに刺激を与える「用」に富んだ作品を実際に用いることが出来る環境において「展示」することで、ITによって、くらしやたのしみ、社会に密着する21世紀のアートの可能性と手ざわりのあるリアリティを提示します。

■出展作家

□ 展示参加

クワクホリョウタ	デバイスアーティスト	MT-Planning	IT デザインカンパニー
鈴木 太朗	メディアアーティスト	小田切 竜太郎	イラストレーター
fuwapika	八木澤優記+松山真也	メディアアーティスト	メディアアーティスト
Surroundings	インフォメーションデザイナー	森脇 裕之	メディアデザインカンパニー
三澤 純子	インフォメーションデザイナー	ヒマナイヌ	

□ Flash Evolution! An Exhibition 展示参加

中村 勇吾	インタラクティブデザイナー	青池 良輔	アニメーター
山本 真也	インタラクティブアーティスト		

Flash Evolution! 全世界コンテストを通じて、他数作家が審査中

□ E+KIT PROJECT 公開制作参加

Crispin Jones	メディアアーティスト/プロダクトデザイナー
エレキット	電子工作キットカンパニー
三澤 純子 および Surroundings	も参加

● 貴媒体にご掲載いただく場合の〔問い合わせ先〕 Tel. 03-6219-0112 web= <http://coolstates.com/evolution/>

本リリースに対する問合せ

クリエイティブクラスター/アートデモ 東京オフィス

voice / fax 03-6219-0112

e-mail: artdemo@coolstates.com

岡田 (企画担当)

Evolution Cafe エヴォリューションカフェ

21世紀のライフスタイルを進化させる新しい世代のアート



テーマイラスト:小田切竜太郎

展覧会紹介

■21世紀のライフスタイルをデザインする作家との交流の場

プロダクトやITサービスの開発と結びつき、新たなライフスタイルの創造に貢献する新しい世代の芸術家の役割。このムーブメントの中心は、**実は日本**。デザイン、ものづくり、ゲーム、コンテンツ、IT、そしてアートという、**日本が誇るソフトパワーが発揮されつつあるのがこの分野**なのです。これら日本からのポップカルチャーに触発された、メディアアーティストがヨーロッパでは今、最も注目されているインダストリアルデザイナーでもあることは、**そのムーブメントが実はグローバルに影響を及ぼしている**ことを物語ります。

このような新しい世代のものづくりを実践する作家たちが、作品の**展示のみならず、クリエイティビティを直接プレゼンテーションする場を本展では用意しております。作品をただ体験するだけでなく、作家と企業やユーザーとが出会い、新たな創造のチャンスを得ることが出来る、新しいアートの役割のための回路**としても本展は機能します。

■新製品が生まれる・新しいコンテンツが発見される

先端ものづくりやコンテンツが生まれる現場をライブにクリエイトします

IT時代のアートはソフトパワーのイノベーター(先駆者)の役割を果たします。その**イノベティブな取り組みが、どのようにライフスタイル、ビジネスや社会に活かされるのか。その最先端の実例が展覧会を通じて展開**されます。

日本のITものづくりの源流ともいえるべき、工作少年なら一度は触れたことのあるエレキットを、IT革命の時代だからインテリアを組み立てるのと同じような感覚で組み立ててライフスタイルで楽しめるものにしようと、**世界20組の若手デザイナー/アーティストに本展に向けてプロポーザルを求めました。そのプロポーザルをもとに、商品化に向けたプロトタイプづくりを展開、期間中公開します。発想がどのようなかたちで最先端の作品になり、プロダクトに昇華されるか、21世紀のものづくりの姿が目にあたり**になります。

コンテンツもしく、WEBによって生まれる便利なサービスを実現するためのデザインや様々な人々が創造性を競い、意外なコンテンツが生まれ、ヒットする時代の中で、各方面の目利きが「2ちゃんねる」から個人クリエイターまで、そして世界規模でレーダーを広げ、逸早く瑞々しい作家をキュレーティング・公開することで、ブロードバンドでの表現の可能性を、グローバルな視点で高めます。

■ライフスタイルそのままに「用」の場で触り寛げる展示

これら先駆的な仕組みを発露させる展示は、そのコンセプトをそのままあらかわしたライフスタイルとしての魅力が感じられる空間が展開されます。

BankART Studio NYKは、日本郵船の倉庫であった建物。光が射す空間は、運河に面し、横浜港、赤煉瓦倉庫、そしてみなとみらいの高層ビル街を見渡します。この心地よい空間を活かし、ギャラリーの中にカフェが併設される、日常の中でアートを楽しみ、寛げるスペースとして新たに生まれ変わります。

この空間を持つ魅力を活かし、**ライフスタイルを進化させる作品を、実際に座り、触り、使い、遊び、楽しみ、寛げる場の中で展示**します。

昼はコーヒーを夕方からはお酒を片手に、一人ふけりながら、もしくは大事な人と、気の置けない仲間と、ひと時を過ごせる触媒として、様々なかたちで刺激を与えてくれる作品が、テーブルやソファ、ライト、ゲームなどのかたちでお待ちしております。

展示構成は、クリエイティブクラスが働ける新しいワークスペース六本木森ビル「co-lab」をプロデュースするなど、21世紀のスタイルを建築から実践し続けることで注目を集める田中陽明(flow)が手がけます。

■クリエイティビティーが溢れ出す実践企画が続々開催

□ artdemo.05 ものづくり/デザイン先駆者がビジネスの目でクリエイティブを評価するアーティストデモンストレーション

日時：2月19日 13時開始 会場：BankART Studio NYK 1階ホール

入場料：2000円 本展覧会チケット・半券持参者は1700円に割引

出展作家が自身のプロジェクトやアイデアをデモンストレーション、クリエイティビティーの可能性を提起します。このデモンストレーションをもとに、世界のデザインシーンに東京からビジョンを発信し続ける IDEÉ の黒崎輝男ファウンダーとエレクトで電子ものづくりを子どもたちを中心に世界の人々に広げる井口秀実イーケイジャパン社長が、ビジネスとしての評価と可能性をパブリックに検討します。ここで新しい時代のアートがものづくりに変化する瞬間を感じ取ることができるでしょう。

デモンストレーション・アーティスト：

Crispin Jones (クリスピン・ジョーンズ：英国) / 三澤 純子 / Surroundings / ヒマナイス

※Crispin Jones はブロードバンドによるロンドンとのテレカンファレンスで参加

評価・コメンテーター：

黒崎 輝男 株式会社イデー 会長・ファウンダー

井口 秀実 株式会社イーケイジャパン 社長

進行役：岡田 智博 クリエイティブクラスター理事長

□ Flash Evolution! The Screening 3月12日はFlash祭り

日時：3月12日 15時30分開始 会場：横浜市開港記念会館

入場料：2500円 本展覧会チケット・半券持参者は2200円に割引

「2ちゃんねる」からアートアニメーションまで、誰でもクリエイティブに参加できる Flash アニメーションの楽しさは、世界の映像シーンに新たな喜怒哀楽をもたらしています。2004年を振り返り、これは必見の厳選 Flash アニメーションを同展にあわせ一挙上映。ゲストに「Flash Evolution!」展示出展作家を招き、クリエイティブの魅力や制作の裏話もトークで公開。港町ヨコハマを代表する重要文化財の歴史的建造物の講堂で Flash まみれの一日を提供します。

スケジュール：

上映1「2004年 Flash アニメ傑作集」(15:30 開始)

クリエイタートーク「Flash 祭りの黄昏に」(17:30 開始)

上映2「2004年 Flash アニメ傑作集」(20:00 開始)

※上映1と上映2は同内容です

※上映内容は3月1日より公式 Web サイト <http://coolstates.com/evolution/>にて公開予定

※横浜市開港記念会館 みなとみらい線「日本大通り」駅徒歩1分 JR・横浜市営地下鉄「関内」駅徒歩10分

ほかにも、バトルロボットパフォーマンス(3月5日夜：BankART Studio NYK 1階ホールにて開催予定)、出展作家によるデモンストレーション、展示空間を活かしたライフスタイルを体験できるラウンジコンサートなど、様々な企画が会期中に展開されます。最新企画の詳細は公式 Web サイト <http://coolstates.com/evolution/>にて発表します

■ 交流プログラム紹介 展覧会に関連して市民とアーティストがクリエイティブ力を磨く交流企画を実施します

◎ アートによるものづくりの楽しさを広げる一般向け電子工作ワークショップを実施します
会場:本展会場 (日程調整中)

◎ 横浜市内で活躍するアーティストによる会場を舞台にしたラウンジコンサートを開催します
会場:本展会場 (日程調整中)

実施予定関連企画

本展では関連企画の開催を予定しております。**日時会場など詳細は現在、調整中のため、次報以降お伝えします。**

ここでは企画概要のみ掲載します。

詳細は次報もしくは、直接、本展担当まで御問い合わせください。

□ Japan Brand Forum 会場:調整中

今回の展覧会を貫く、アート、デザイン、ものづくり、IT、コンテンツ、食のテーマはそのまま、日本が世界で競争力のある分野である。ジャパブランドが語られる中、何がジャパブランドになっているのかを実際のステークホルダーによるケーススタディーを語ってもらうことによって明らかにするカンファレンスを実施します

□ Creative Cluster Forum 会場:BankART Studio NYK

アート、デザイン、ものづくり、ITが融合することによって活力が生まれるのが 21 世紀の社会と産業。そこにある可能性を、逸早く察知した各界の専門化が語り、指針を示すことで、ステークホルダーに対し理解を促すためのシンポジウムを実施します

出展作品・アーティスト紹介

本展ならびに出展作家作品等の写真資料はWEB上におきまして印刷対応の高解像度画像で入手できるようにしております。何卒、御活用の際、宜しくお願いします

写真ダウンロード用サイト <http://coolstates.com/evolution/>
フレーム左肩の Information Index 内の Press Photo の欄をクリックしてください

■ クワクボリョウタ KUWAKUBO Ryota

ITを駆使したアーティストとして今や日本を代表する存在となったクワクボ。

しかし、その作品はアナログチックであり、世代を超えて懐かしさと親しみやすさを感じさせるものがある。自身をデバイスアーティストと称するように、主に秋葉原の電気街で入手した電子部品によって、作られたその作品たちはハイビジョンの時代にあって点が大きく認識できるLEDによるドットであったり、単純な電子音や振動によるインタラクティブなものである。しかし、その部品たちが持つエレキの美しさや反応のおもしろさを絶妙にパッケージングした作品は、電気街から「おたく」の街になった秋葉原への郷愁そのままに、ローレゾリューションであるが故の美しさや温かさを持ついとしさを感じさせずにはいられないものになっている。

出展作品:

loopScape 相手との距離が縮まるゲームマシン

LEDで作られた丸いディスプレイでシューティングゲームを楽しもう。ループする世界の中で対戦相手が操縦する敵を打て。うかうかしていると回り込まれたり、自分が打った弾が追いついて自爆したり。

激しくくるくる動かないと戦えないこのゲーム、対戦している間に妙な連帯感が生まれるのだ。



loopScape

Vomoder IT devolution **電子の温かみに触れる電話ツール**

この昔のテレビが計測器みたいな機械。実は声だけでなく表情がにつながるトランシーバー。画面上に相手の声にあわせてドット画のキャラクターがかわいくおしゃべりしてくれます。テレビ電話よりもなぜか親しみが湧いてくるローテク IT 革命だ。

1971 生まれ。筑波大学大学院修士課程デザイン研究科総合造形修了、国際情報科学芸術アカデミー (IAMAS) アートアンドラボ科卒業。代表作: Bitman、PLX、loopscape など。第7回文化庁メディア芸術祭アート部門大賞(04)、P rix Ars Electronica 02/03 インタラクティブ・アート部門連続入選のほか、世界各地の美術館やアートフェスティバルで多数する一方、他アーティストのサポート・エンジニアリングや、メーカーとの製品・オモチャ開発なども行う



Vomoder

■ 鈴木太朗 SUZUKI Taro

鈴木が作る作品は、電子が織り成す反応の美しさを最大限に引き出す、ITの中のテクノロジーの美への探求の成果である。展示する「青の軌跡」は、テーブル状の照明に何十にも仕込まれた風車の振る舞いから生まれる風によって、繊細な光のグラデーションを織り成す。センサーによって作品に集まる人々の動きを把握し、様々なかたちで繰り出される光の挙動は、見るものに新鮮な驚きを与えることでその光に魅了される吸引力となるのだ。

1973 年生まれ。伊藤隆道に師事、東京藝術大学大学院美術研究科博士課程在籍。代表作: Water Canvas。「青の軌跡」で NHK デジスタアワード(03)、第7回文化庁メディア芸術祭アート部門奨励賞(03)、芸術科学会 DiVA 展大賞(03)を獲得



青の軌跡

■ fuwa pika ふわぴか

鈴木太朗とともに下町葛飾の銭湯跡をアトリエに活躍する、東京藝術大学デザイン科助手の八木澤優記と様々な難しいプロジェクトをこなしてきた若手メディアアートエンジニアの注目株松山真也によるユニット。常に化学現象に注意を払い、自然の摂理の一瞬を再現可能なインタラクティブ作品としてかたちにする作風で注目をされている。鈴木とともに制作した「ウォーターキャンパス」(水の気泡をドットにして「描画」するディスプレイ型作品)は、ディスプレイデザインの分野において早くも影響を及ぼす存在になっている。

■ 展出作品: ふわぴか **光が快感を誘うカウチ**

光るソファが作品になったもの。座ることによる重さが反応となり、ソファの中の光が様々な振る舞いを見せてくれる。座り、包まれる、ソファが持つ、触覚としての心地よさが、柔らかな光による視覚的な包容力でより一層深まる、癒しのインタラクティブオブジェである。

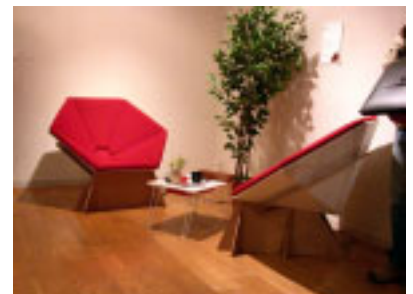


ふわぴか

八木澤優記: 1974 年生まれ。伊藤隆道に師事、東京藝術大学大学院美術研究科修士課程デザイン専攻修了(04) / 松山真也: 1978 年生まれ。森脇裕之に師事、和歌山大学システム工学科卒業、多摩美術大学大学院(情報デザイン)修了。代表作: Water Canvas

■ Surroundings サラウディングス

SFC(慶應義塾大学湘南藤沢キャンパス)のメディアデザイン研究から生まれた、アーティストグループ。湘南藤沢開学以来、様々なメディアアーティストを輩出してきた中の新世代注目株である。博士課程に在籍し、次世代メディア・知的社会基盤研究の COE において研究員に抜擢されたリーダーの植木淳朗は、「ものがつくりたい」という思いのもと、東京大学経済学部より進学、SFC から生まれた様々なアーティストが制作の場とした工房に入り、一からものづくりの腕を磨いた。クラブ系ジャズミュージシャンとしてデビューした岩田幸成、可能性が認められ高校生の頃よりプロジェクト入りした未だ10代の渡邊康太郎など、研究力と社交力、それに遊び心にもものづくりの力を兼ね備えた個性派のメンバーによって、送り出される作品は研究成果としての先端知の反映のみならず、日常生活を豊かにするスパイスとしての存在感を既に兼ね備えている。



Cafe Tools

■ 展出作品: Cafe Tools **親密になれるリビング**

カフェという寛ぎの空間の中で人との関係を親密にさせるためのインタラクティブな機能が秘められたインテリア。会話の相手の声が目元からやさしく掛けられる、親密度を高められるソファ。親密度を把握して演出する照明。遊びを知り尽くした感性から生まれるムーディーな世界を作り出すインタラクティブファニチュアだ。

Surroundings

慶應義塾大学メディアデザインプログラム稲蔭正彦研究会所属のメンバーにより結成。“人に寄り添うメディア”をテーマに、家具を中心として、生活の中にとけ込んだ次世代プロダクトを提案、製作している。代表作:ACTiM、Cafe Tools。企業や研究機関からの制作依頼に応えるため、株式会社 Surroundings を横浜市に 2004 年 12 月設立

■ ヒマナイン Himanainu

「暇な犬、探してます」を合言葉に集まった、CM プランナー、デジタルコンテンツ業界誌編集者、ビデオジャーナリスト、バー経営者など、多彩な職業のコミュニケーション中毒者たち。そのコミュニケーション快樂指数を高めるために作り出すデバイスやソフトウェアが彼らの作品であり、作品を通じた多メディア展開をビジネスモデルにしている。

出展作品： ワクワク パーティーコミュニケーションを盛り上げるデジタルカメラ

写真を撮るときに指でフレームを作ったりしますよね。では、フォトフレームをそのままデジカメにしてしまおう。そんな作品であり、プロダクトの提案であるのがこれ。フレームで示した相手が撮れるだけでなく、自分撮りも可能。枠をツールにコミュニケーションが深まります。アーティストがデジタルカメラを作ったら、それがこのプロトタイプであり作品なのだ。

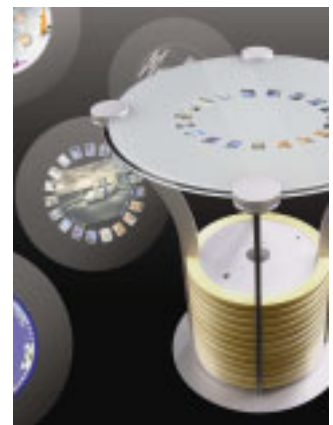


ワクワク

「セルフタイマー」に続く記録の新概念「ライフスライス」を用い「人間の体験」をベースとした新しいメディアを作ることを目的に、2002 年結成。デジタルカメラ、サーバー技術、などテクノロジーを駆使したベースを使いながら、人間の根元的な行動、記憶、フィードバックを活性化させるための提案を行っている。代表作であるライフスライスカメラによるプリント作品で、第6回文化庁メディア芸術祭ノンインタラクティブ部門特別賞(03)を獲得。アートデモによる起業プログラムを通じて株式会社ヒマナインを設立(03)

■ MT-Planning エム・ティ・プランニング

ITによる日本のものづくりを支えるデザイナー集団。ITから生まれるデジタルの情報を分かりやすく伝えるインフォメーションデザインを得意とする彼らの代表作が、今回展示する**メディアテーブル**(情報や遊びが湧き出すテーブル)である。メンバーが NEC デザイン在籍時に開発したこのテーブルは、机上をタッチパネルディスプレイにしたもの。メディアアート作品として同様のものが多々生まれる中、装置としての耐久性と正確さ、様々なインタラクティブを持つ作品やコンテンツに対応できる柔軟性で他を追随しない。いつもなら紙を広げたり、PC を開いたりする場である、その勢い余って机の上に何か書きたくなるテーブル。それがディスプレイになったら？という誰もが感じる思いを確実なかたちにしたメディアテーブルを体験あれ。



Media Table

創業者の三澤純子と土屋健一は、株式会社 NEC デザインに在籍中に、「Media Table」の企画・デザイン提案を行い、事業化を探る過程を経て退職。2001 年 3 月に有限会社エム・ティ・プランニングを設立、人・情報・空間のインタラクション(相互作用)を企画する仕事を中心に展開している。キオスク端末などハードウェアの開発もあれば、プレゼンテーションや地域案内などのソフトウェアの制作もある。管制室などの特殊な空間デザインも行えば、グラフィック制作も行う。グッドデザイン特別賞(00)、アカリ・イメージ 2004 入選(04)、青山デザインアワード 2004 入賞など、その活動と作品に関する受賞多数。代表作である「Media Table」は現在、タッチパネル・システムズ株式会社にて、製造・販売中。MT-planning は、顧客向けの導入プランやソフトウェアの制作を担当している

■ 小田切 竜太郎

メディアテーブルをインタラクティブに賑わす**キャラクター**を制作。キュートなイラストで、ファッション誌や商業グラフィック上で日本的アーバンライフのおしゃれを伝達する魅力を持ったクリエイティブでメディアを彩れるパワーで大注目の存在。まさにおしゃれかわいい小田切ワールドがメディアテーブル上でインタラクティブに展開される、メディアデザインとイラストレーションの最新コラボレーションがここにある。ITな今から明日の暮らしの愉しさをまさに具現化した、**本展のテーマイラスト**も小田切の手によるものだ。



イラスト⇒小田切竜太郎

■ 三澤純子 MISAWA Junko

エム・ティ・プランニングの代表である三澤は、NEC デザイン在籍時より頭角を現してきたプロダクトデザイナー。ITをより魅力的で誰でも使いやすいプロダクトにするためのデザインを探求する中で、自身のクリエイティビティーでものづくりを志し、スピノフシ今に到る。

出展作品： Seizable Light イルミネーションが輝くクッション

クラフトの中にITを取り入れ、日常の中で新しい時代のクリエイティビティーを楽しもうという提案。次世代の照明として生活の中にも浸透し始めたLEDを用い、クッションを光らせたこの作品は、今まで取り扱いが専門家でないとなかなか難しかったハイテクパーツを手芸感覚で扱いやすいように加工し、様々な工夫で生活を豊かにするためのパーツとして送り出すためのプロトタイプである。



Seizable Light コンセプトスケッチ

人間工学を専攻し、NECにてプロダクトデザイン、コーポレートデザイン、システムデザイン等を経験し、2001年独立。現在、有限会社エム・ティ・プランニング代表。2003年より子育て開始。

■ 森脇裕之 MORIWAKI Hiroyuki

NHK 紅白歌合戦の小林幸子の電飾衣装の造形で知られてきた森脇は、LEDを中心に先端イルミネーション技術を果敢に取り入れ、光の美と反応のおもしろさを提示し続けるキネティックアートの第一人者である。森脇は、巨大プロジェクトや美術館でのインスタレーションのみならず、21世紀らしい日常生活に艶を与えるインテリアとしての光のある作品の考察を近年は展開している。

出展作品： Tea for Angel 光の影が映えるからくりテーブル

LEDが埋め込まれた天使のテーブル。テーブル上にモノを置くとあたかも影のように澄んだ光が動き出す。物を動かすとそのまま素直に光の「影」が動き出す挙動は、気にならずにいられない気持ちになり、もっと長く、このテーブルに留まりたい気分させてくれる。



Tea for Angel

1964年生まれ、多摩美術大学情報デザイン学科助教授、筑波大学大学院芸術研究科デザイン専攻修了。代表作：「レイヨ=グラフィー」、 「夢を見る夢を見た...」ファッション・デザイナーとのコラボレーション(小林幸子電飾衣装)や演劇パフォーマンス(パパ・タラフマラ)などの異分野とのコラボレーションも多い

Flash Evolution! An Exhibition 出展作家

■ 中村勇吾 NAKAMURA Yugo + 北村慧太 KITAMURA Keita

出展作品： HAPPY/NEW/YEAR 作品URL <http://www.tha.jp/project/greeting2005/>

作者らの2005年の年賀状として配布されたグリーティングカード。米Amazon社の提供するWebサービスAPIを使い、Amazonに登録されている膨大なブックカバー画像を「Happy」「New」「Year」のキーワードで検索、収集し、ブラウザ画面上にタイポグラフィとして表示する。カバーにマウスカーソルを載せると詳細情報が表示され、クリックするとAmazonの該当書籍ページが開く。偶然性と究極の「ジャケ買い」をミックスした、明示的なキーワード検索に代わる新しい情報提供の形？なのかもしれない。もちろんビジュアル作品としても長時間見ても飽きない。



中村勇吾 ディレクター/デザイナー/エンジニア 1970年奈良県生まれ。東京大学工学部大学院修了。Webを中心としたインタラクティブデザイン、インターフェイスデザインの分野で制作活動を継続中。クライアントワークとして、SONY CAMCAMTIME、NEC ecotonoha、インテンショナルリーズ など。受賞等多数。また個人としても、世界各地の展覧会やワークショップ等に多数参加し、多方面で活動中。2004年にデザインスタジオ「tha」を開始。

北村慧太 エンジニア 1983年生まれ。株式会社ビジネスアーキテクツのエンジニアを経てシアトルに留学後、中村勇吾とともにtha社に籍を置き活躍中。

■ 青池良輔 AOIKE Ryosuke

出展作品： PERESTROIKA

リビングルームで、ノートブックパソコンとデジタルカメラから生まれたアニメーションシリーズ「ペレストロイカ」とある町に住む、いつも腹ペこなロシア人移民の3人組が食べ物を求める騒動を描いたデジタルアニメーション。この作品では、キャラクター頭部はオーブンで焼ける粘土で作り、背景は1/24のミニチュアの街を製作した。これらの素材を一般的なデジタルカメラで撮影し、その写真データをMacromedia Flashに取り込み、配置。頭部は、目や髪型など何もついていない人形を、360度から口の形を変えながら撮影。それらのデータをFlash内でアーカイブ化した。キャラクターの体やアクセサリ、そして目の表情などは配置された写真素材の顔の上に、ペンタブレットを使いラップトップ上で直接書き込まれた。素材の準備、撮影以降の、アニメーション制作、カット割り、編集、サウンドの振り当てなどの作業を、全てをラップトップコンピュータで行う。



PERESTROIKA

Flashアニメーター/クリエイティブディレクター(フリーランス) 1972年山口県生まれ。大阪芸術大学映像学科卒。映画製作会社でクリエイティブディレクター、プロデューサー、アートディレクターを遍歴し、そこで得た様々な経験を生かし、Flashアニメーションを製作する。代表作「CATMAN」シリーズではFlashに映画的演出を持ち込むことを試みる。現在はカナダに在住し、フリーでショートアニメ、ミュージッククリップ、TVCM等をFlashで製作。作家URL⇒ <http://www.aoike.ac/>

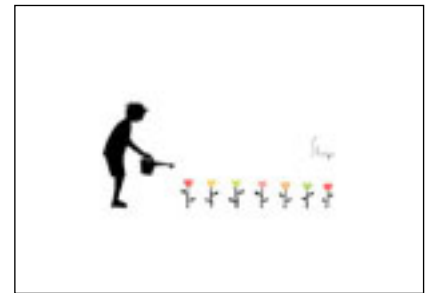
■ 山本真也 YAMAMOTO Shinya

出展作品： 丘の上から ありがとう THE COLORS OF MESSAGE

ありがとうの色、ありがとうの形、ありがとうの重み。
私たちは目にするものや手にするものに色、形、重みなどがあるように「言葉」や「気持ち」にもその「個性」を感じ取ることができます。
また、その「個性」から「言葉」や「気持ち」を受け取ることもできます。
あなたはどんな「The colors of message」を持っていますか？

神戸在住のWEBクリエイター。和の美しさを感じさせるようなメリハリの効いた作風が注目されている。世界最大規模のデジタルクリエイティブのコンテストである、キャンノン・デジタル・クリエイターズ・コンテスト2002でゴールド(大賞)受賞のほか、アルスエレクトロニカのネット部門で入選(2003年)を果たすなるグローバルに注目を浴びる。

作家URL⇒ <http://www.sinplex.com/>



丘の上から ありがとう
THE COLORS OF MESSAGE

公開制作プログラム：E+KIT (えれきつとぶらす)

出展アーティストのほか、世界20組の若手メディアアーティスト/デザイナーをクリエイティブクラスターが指名、IT組み立てキットの新製品企画を募集。集まった企画の中から、選定した案にコンペフィーを提供、会期中にプロトタイプ作品の制作を依頼する。本展では、スケッチからプロトタイプに到るまで、アーティストたちがどのように作品を作り出すかのプロセスをワークインプログレス方式で展示。クリエイティブティのあるアーティストが才能を発揮する手順を会場で追体験できるようになっている。
プロトタイプ作品からデザイン・インテリアとしてのクリエイティブが愉しめる、クロスオーバーキットとして全世界販売がELEKIT+のブランド名で予定されております

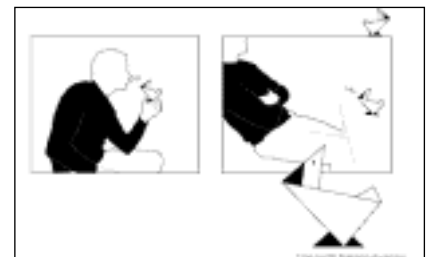
公開制作選定プロポーザル

□ digiParrot

あなたの声を覚えて鳴くキュートなエレクトリックバードを組み立ててみませんか？

提案者：Crispin Jones クリスピン・ジョーンズ

digiParrot

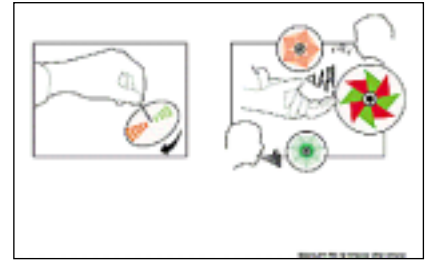


□ SPINNER

あなたの声や音に反応すると次から次に模様を変えてゆく不思議な独楽です。

提案者: Crispin Jones クリスピン・ジョーンズ

ロンドン生まれ。英国王立美術大学大学院(デザイン)を経て、ロンドンを拠点に制作活動を行っている。Interaction Design Institute of Ivrea(伊)特任教員。インタラクティブデザイナーとして現在、The Science Museum in Londonにてインタラクティブ装置の制作を担当。テクノロジー、特にITと私たちとの関係をクリティカルにみる事が出来るアートワークを信条にしている。IDEOとの共同制作である携帯電話 Social Mobiles で、第6回文化庁メディア芸術祭インタラクティブアート部門大賞を受賞。



SPINNER

□ Frame Light Bee

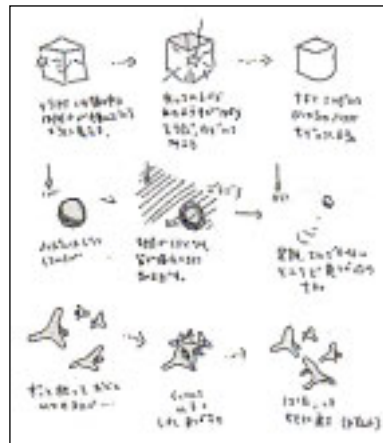
ビー玉と照明でつくる光の絵画。額縁の中に仕込まれた照明によって、ビー玉の影が蝶々のように羽ばたきます。照明の入った額縁は、作品を飾る場所を、舞台のように演出します。

提案者: 三澤純子

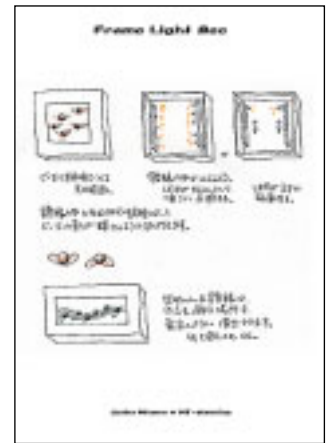
□ COBITO Series

環境から受ける刺激に、何らかの形で反応し、アウトプットするデバイスは多くあるが、環境からの刺激に対して、パッシブな反応を示すデバイスはこれまでなかった。明かりをつけるとすぐ逃げ出してしまふ、働き者の小人とかかわるようなインタラクション。

提案者: Surroundings サラウディングス



COBITO Series



Frame Light Bee

■ エレキット ELEKIT

少年の頃、多くの人に触れたであろう電子工作キット。そのトップブランドがエレキットである。30年以上にもわたり、九州福岡から送り出されてきた「キット」は、日本のみならず世界中に広がり、ものづくりとハイテクの夢を与え続け、例えばロボカップジュニアにおけるグローバルなメジャーサプライヤー(他のサプライヤーとしてはレゴのマインドストームが知られている)でもある。また、多くの日本のメディアアーティストが学生時代や立ち上がり時に、組み立てのためのパーツとしてエレキットを頼りにしていることはあまり知られていない。

今まで陰ながらものづくりのクリエイティビティーをこのように支えてきたエレキットが、新たなムーヴメントを提起する。

ライフスタイルを更に豊かにする組み立てキットをメディアアーティストやデザイナーとともに開発しようというのだ。

工作少年のためのキットから、インテリアやデザイン感覚で魅力的なデザインや反応のおもしろさ、持つ喜びを兼ね備えたクロスオーバーキットをアーティストのクリエイティビティーとタッグを組んで作ろうというのである。「わくわくするようなキット」のためのプロジェクト、こどもたちに「ものづくり」の喜びが、生活者にお気に入りのITをクリエイティブに持つ喜びがここから広がる。